

おしぎじしふっきのはなぶき  
扇獅子富貴の英

「扇獅子」永井素岳作詞

〳日の影の富士に うつろう風景は

よその国には あらがねの 土一升の 日本橋

〳昔をしのぶ むらさきの 今朝は三筋の 初がすみ

〳其の弾き初めに さきがけを 競う庭木の 梅咲きて

夜飼に馴れし 鶯の 初音床しき 匂い鳥

〳岸の柳も 未だ春の 若き姿の 浅みどり

〳遠く望めば青々と 忍ヶ岡も 夏の来て

〳花も若葉と 衣がへ 卯の花雨に しめやかな

〳軒の玉水 手枕の 耳に嬉しき 卜声を

雲井に残す ほととぎす

〳昨日の雨も秋風に 晴れて隈亡き 月影を

浪に乗せ来る 海原を 越えて幾艘 魚河岸へ

船の櫓拍手 勇ましく 天飛ぶ雁の 後や先

〳時雨も雪に 降りかわり 隅田はさこそと 盃を

開くや花の 冬牡丹

〳時に扇の 獅子の曲 差す手引く手も 打ち連れて

賑う家こそ 目出たけれ。